

## 高校を核とした新たな人づくり・人のながれづくりプロジェクト

実施時期:令和2年度～

R2年度町予算: 880 千円

R2年度連携自治体の合計予算: 1,268,039 千円(32 団体の合計)

### ■事業概要

屋久島町まち・ひと・しごと創生総合戦略では、町の人口目標を「2060 年に 11,000 人以上」としており、その指標として、「屋久島高校が維持・存続できる生徒数を毎年確保する」と定めています。

この指標を達成するため、屋久島町と屋久島高校は「屋久島高校魅力化プロジェクトに関する協定書」を締結し、本町の子ども達が、より一層屋久島高校への進学を選択しやすくなるよう、支援を行ってきました。

高校を核とした新たな人づくり・人のながれづくりプロジェクトについては、屋久島高校魅力化プロジェクトの一環として取り組んでいるもので、屋久島高校の生徒数の維持のために、町外から屋久島高校への入学を希望する生徒を募集し、下宿等に際する費用を支援しています。

支援内容	1. 町外からの入学者に対する下宿費等の補助	40,000 円/月
	2. 町外からの入学者に対する帰省旅費等の補助	上限 30,000 円/年

※これらの補助金については、地方創生推進交付金の対象外のため、町の一般財源で対応しています。令和3年度からは、国交省の離島活性化交付金を活用し、50%負担となる予定です。

### ■事業の成果

今回の町予算 880 千円は、町外生徒を募集する際のイベント「地域みらい留学フェスタ」に参加する際の負担金に地方創生推進交付金を活用しており、事業実施による受入実績は以下のとおりです。

	令和2年度	令和3年度
町外からの生徒数	2名	2名(予定)
受入実績(見込)	(埼玉県1、神奈川県1)	(東京都1、大阪府1)

町としては今後、1学年3～5名の町外からの生徒を確保していきたい方針です。令和2年度から実施している「高校スクールバスの料金低廉化(どの集落からでも一律 4,000 円に)」、令和2年度実施済みの「高校魅力化に関するアンケート(別紙参照)」の結果を参考に、今後も屋久島高校魅力化に取り組みます。

## 「高校を核とした新たな人づくり・人のながれづくりプロジェクト」への評価・コメント

・屋久島の高校生のリアルな声が聞けて非常に興味深かった。地元の高校に対してポジティブな意見が多く（県内の他の高校を検討した理由は、明確な目標や学科があるケースが多い）希望が持てるなど感じた。今後の課題は、環境の整備と、屋久島だからできる学びの場をどう作っていくかだと思ふ。それがひいては、屋久島へのリターンや島内就職に繋がるのでは？また、このプロジェクトで町外からきた生徒の皆さんの理由や意見が知りたい。（都会の学校になじめなかった生徒さんの新しい選択肢というのもありかと思ふ。）

・全国の離島にある公立高校の魅力化プロジェクトは、近年ほぼマニュアル化が進み全国で多くの成功事例がみられるようになっている。屋久島高校魅力化プロジェクトの今後の展望は、島外からの生徒募集を継続して、一定数の生徒を確保する努力を続けてほしいと思ひます。

・島外から屋久島高校への受入を進める取組みの一つとして、岳参りなど屋久島の歴史・文化に触れる行事を島内の生徒と一緒に体験するカリキュラムも入れてもらいたい。

・「志願者数ではなく、志望度の高さを重視」—述べ志願者数にこだわらず、屋久島高校の特徴を理解した志望度の高い生徒の増加が重要！

2018年問題、人口減少時代の新しい地域づくりに向けた学習・活動に関して、屋久島高校の魅力化はどう改革しようとしているのかのビジョンが見えてこない。広報は「宣伝」ではなく、ステークホルダーとのコミュニケーションである。ステークホルダー（受験生・保護者ら）から見た屋久島高校のイメージは、20年前と変わっている？変わっていない？中学生の屋久島高校に対する意識、情報の収集方法は変化している。前例踏襲の募集活動では、志望度の高い生徒を集めるのが厳しくなっていくだろう。ステークホルダー（親学の勧め）の検討がアンケート調査に表れている。

・成長を期待している事業です。町外からの入学者に対する帰省旅費の補助は、結果として町外へお金を流出してしまうので、保護者が学校行事等で屋久島へ訪れる際の補助金に変更してはどうか。こうすることによって、町内滞在中に経済活動を少しでも促すことにつながるだろうか。

・昭和53年安房で開催された県知事（鎌田要人）と語る会の時、屋久島の自然環境を体感できる教育施設の導入設置をお願いしたことがありましたが、現在の屋久島高校の環境コースの設置が継承しているのかなと感じているところです。留学制度のより充実した推進を望みます。

・町外からの生徒受け入れの幅を広げ、海外からも受け入れてはどうか。隠岐の島海士町などでは実施していると思ひますので参考にされてははいかがでしょうか。

・小学校から中学校、高校までの12年間で一貫して島の事を学べる環境づくりをすることで、子供たち

自身が島の事を考え、この島を出てもまた帰ってきたくなる思いが強まるのではないのでしょうか。一貫教育の先生は島内にいる人材を活用する。

- ・島の子供たちを集めて「子供サミット」を開き、子供たちの意見をもう少し聞きながら、子供たちに将来の屋久島を語ってもらうことも郷土愛の増進になるかと思います。

- ・屋久島高校に入学したら、一度は縄文杉に触れるなどの特権を作ると世界中から人が集まるのではないか。屋久島でしか出来ない本物の自然と触れ合うことは何よりの財産。